

「血液型気質相関説」の史的評論 III

—追悼 能見俊賢・中国における血液型性格判断を中心にして—

大村政男*・浮谷秀一**・藤田主一***

A Historical Criticism to the Blood-Temperament Correlation Theory III

—A Tribute to late Toshitaka Nomi. Recent Trends of the Bloodtype
Characterology (Character Judgment); Foreign and Japan—

Masao OHMURA*, Shuuichi UKIYA**, and Shuichi FUJITA***

The article review the following three topics;

- (1) A tribute to late Toshitaka Nomi, the successor of “The blood type anthropology”.
- (2) Brief summary of the blood type characterology (character judgment) in The People's Republic of China.
- (3) Rise against the tradition of the blood-temperament correlation theory of Takeji Furukawa (1932), the birth of new bloodtype characterology (character judgment).

key words: bloodtype, Toshitaka Nomi, The People's Republic of China.

1. 追悼 能見俊賢—血液型人間学の衰亡—

能見正比古の養嗣子で、血液型人間学と「ABOの会」を継いだ能見俊賢が2006(平成18)年9月27日午前2時2分、脳出血のために急逝した。行年57歳、夭逝といえよう。われわれとは長く対峙的な立場にあった人物であるが、血液型性格学の歴史に残る人物として、ここに哀悼の辞を捧げるものである。

俊賢の出自については、前川輝光(『血液型人間学—運命との対話』の著者)も判然としないところがあると述べている。『週刊現代』の1985(昭和60)年3月16日号の「能見俊賢特集」を見ても、彼の出自は判然としない。彼の死によってわかったことは、1948(昭和23)年10月19日に生まれたということだけである。そうすると俊賢は正比古が23歳、妻澄子が20歳のときの子どもということにな

る。俊賢が養嗣子であることは確実、そうなると母親の年齢が若すぎる。この件は、前川も「話が合わない」としている。

ここでは、『フリー百科事典ウィキペディア(Wikipedia)』の記事を補足しながら、能見俊賢の人間像を記述してみよう。

能見俊賢の経歴 日本大学文理学部史学科卒業、日本文化科学社や産経新聞社などに勤務したのち、義父正比古とともに血液型人間学の発展に従事する。正比古の急逝(1981年10月30日)後はその遺志を継ぎ営々と血液型と性格の相関性を布衍したばかりか、「NPO 血液型人間科学研究センター」の活動にも深く関わっていく。しかし、「血液型人間学」は衰微の一途をたどることになる。

能見正比古 vs. 能見俊賢 血液型性格判断を売物にした能見正比古の大事業は、俊賢が継承することになる。しかし、正比古の崇拝者たちは俊賢には馴

* 日本大学 Nihon University

** 東京富士大学 Tokyo Fuji University

*** 日本体育大学 Nippon Sport Science University

染まなかったのである。俊賢が養嗣子であったこともその理由になるが、正比古と俊賢の力量の差、俊賢の人望の希薄さ、そして周囲の情勢（多数の類似した血液型性格判断の勃興）などが相まって、血液型人間学は急激に衰亡してしまった。まさに正比古

はカリスマ性を持った怪獣的存在だったのである。

現在、能見正比古が組織した「ABOの会」はどうか。機関誌『アボ・メイト (abo mate)』は1979 (昭和54) 年7月に「見本版」を出し、10月に創刊号、1986 (昭和61) 年4月に通巻68号 (実は69号) で休刊になっている。俊賢はこの機関誌を季刊にして街の書店でも販売できるようにしたいと思っていたが、水泡に帰してしまった。

次に、『アボ・メイト (abo mate)』の創刊号と最終号の表紙を掲げておこう。これらはすべて「ABOの会」事務局の手作りになるものである。

なお、「ABOの会」隆盛時の地域別会員302人の動向を表示したのがTable 1である。女性が圧倒的に多数を占めるかと思っていたが、男性144人、女性158人であった。



Figure 1 創刊号の表紙



Figure 2 最終号の表紙

Table 1 「ABOの会」の会員分布 (単位: 人)

地域	A		B		O		AB	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
北海道	1	2	0	2	2	4	0	2
東北	2	3	2	2	1	1	1	1
茨・栃・群	1	0	4	0	1	2	1	0
千葉	2	1	3	6	4	2	1	1
東京	10	7	9	8	6	6	7	9
神奈川	2	3	5	8	2	5	5	5
埼玉	0	2	3	0	2	4	2	1
東海	1	1	1	4	1	2	1	3
愛知	2	2	3	2	3	3	1	3
信越・北陸	6	2	2	1	2	2	0	3
大阪	4	5	6	3	1	1	4	0
近畿	0	1	3	4	0	0	3	4
兵庫	1	1	0	0	1	2	0	3
中国	1	3	1	0	2	1	2	2
四国	2	3	1	0	2	1	1	2
九州	2	3	2	2	0	1	3	1
合計	37	39	45	42	30	37	32	40
%	25.7	24.7	31.3	26.6	20.8	23.4	22.2	25.3
観/期	76/115.1	87/65.8	67/92.7	72/28.4				

- 備考 (1) 「ABOの会」はここでは16部会になっているが、細分すると23部会になる。
 (2) 静岡・岐阜・三重の3部会は東海部会という名称になっている。
 (3) Table 1の最下段の観は観察値、期は期待値を示す。
 (4) Table 1に掲げられている男女合同の血液型分布をカイ自乗検定に掛けてみると、 $\chi^2_{0.05} = 94.1$ になり、 $p < .01$ で有意になる。期待値の計算は能見の比率による。

2. BOA サークルの活動

正比古の没後、俊賢の運営に不満を持った鈴木紀玖範・松本道弘・田辺邦夫たちは「BOA サークル」を結成して団結した。このサークルの最初の大きな仕事は1931（昭和6）年10月、石津作次郎（大阪血液型研究所所長・（株）石津作商店社長）によって刊行された『血液型研究 (LA STUDIO DE SANGA-TIPO) 50冊の復刻本（第1・2分冊）の刊行である。このサークルの代表者は鈴木紀玖範であるが、復刻版の奥付には「BOA サークル出版分科会」の責任者として田辺邦夫の名が記載されている。次に掲

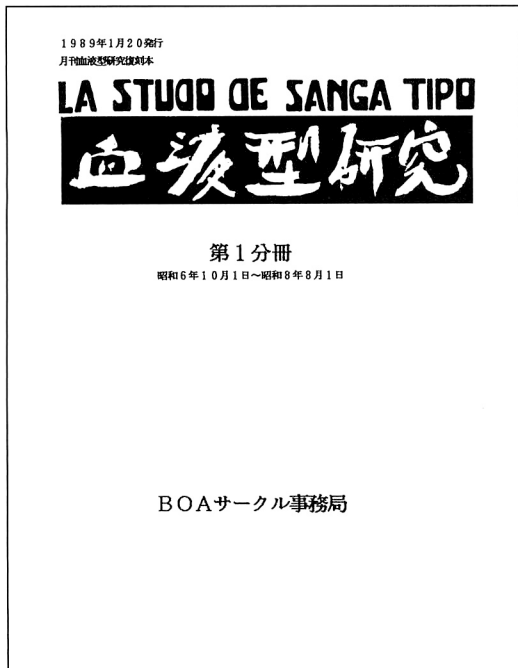


Figure 3 『血液型研究』復刻版第1分冊の表紙

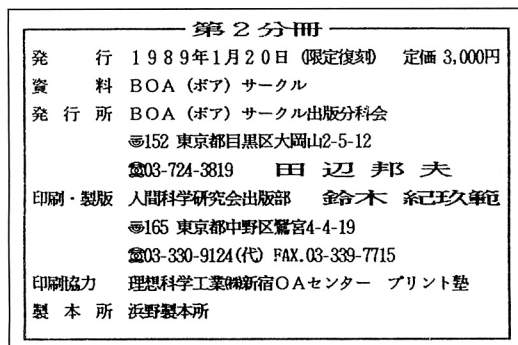


Figure 4 『血液型研究』復刻版第2分冊の奥付

げられているのは『血液型研究』の復刻版についての資料である。

この「BOA サークル」のその後の動きについてはわからない。古川竹二の没後約30年の空白後に出現した能見正比古は「鳥無き里の蝙蝠」であった。現代は真っ昼間でも多数の蝙蝠を見ることができ。「BOA サークル」もそのなかに埋没してしまったのではないだろうか。

3. 正比古・小林秀雄の心理学批判と新しい動き

能見正比古はその著『新・血液型人間学』(1983)のなかで、次のように心理学を批判している。すなわち、「心理学は部分的には自然科学的な実験方法を採用しているが、中心思想は科学ではない。極端に言えば、心理学者の数だけ心理学が存在する。(中略)心理学はまだ、万人共通の客観性を持たぬ主観の学なのだ」(p. 117)と。また、小林秀雄はその評論「心理小説」のなかで、「心理学は頭にくる酒みたようなものだ。安かったと思ってあとで屹度後悔する。私は両方とも性懲りなく経験してきた。(中略)形而上学と修辞学との奇妙に混淆したこの一種の科学は、いつも人を不安にする魅力を持っている」と述べている。この2人の識者の心理学批判は必ずしも外れてはいない。「血液型性格判断」や「血液型占い」などが廃れないのは人間の持つ不安、特に「自分」という人間存在に関する不安である。この不安は人間行動のさまざまなところで動機づけになっている。いろいろな占いが流行るのも、さまざまなカウンセリングに人気があるのもその現われなのである。

血液型性格判断は能見1人のものではない。目黒宏次・澄子、その弟子鈴木芳正、そして鈴木紀玖範たちの名を挙げることができる。また、新しいところでは御瀧政子（こころカンパニー）やG・ダビデ研究所などの活動、藤田統一郎（東京医科歯科大学名誉教授）の研究が目立っている。能見正比古や俊賢親子は「心理学」と真っ向から対峙したが、現在はそういうムードは感じられない。能見正比古や俊賢の持っていた心理学に対する情緒的な攻撃性は消失し、両者は当分平行線をたどることになったのである。

4. 中華人民共和国における血液型性格学

中華人民共和国（中国）には、血液型（血型）と性格に関する多数の出版物が見られている。ここでは、1933年6月に北京の華語教学出版社から刊行された曲音著の4分冊について解説しよう。Figure 5はA型に関する分冊の表紙、Figure 6はB型に関する分冊の扉、Figure 7はO型に関する分冊の扉の裏、Figure 8はAB型に関する分冊の裏表紙である。表紙にある命運とは運命、すなわち将来のことである。ここでは星座を除く部分についての日本語訳を掲載することにする（日本語訳：日本大学文理学部講師 池間里代子）。

中国版 A 型人間における性格描写

ここ数年来、中国の新聞紙上で血液型に関する報道が多くなされている。血液型で人間を判断するという雰囲気が生じ、個人の血液型を研究する者が多くなっているのである。中国では4種の血液型のなかでA型が多数を占めている（注：われわれが古川の『血液型と気質』掲載の資料7件12,756人から計算すると、A型30.6%、B型24.2%、O型36.9%、AB型8.3%となっている）。これはA型の人の特

に研究意欲が旺盛で、自分の血液型を分析するだけではなく、他の人びとの血液型を調査することにも興味を持っているということに起因している（注：この論理はおかしい）。フランスの心理学者レオン・ブールデル（Léon Bourdel）の研究（注：彼の著書『血液型と気質』は1960年に刊行されている。ブールデルは、A型をハーモニー型、B型をリズム型、O型をメロディ型、AB型を複雑型と名づけている）によると、フランスではA型が43%を占めていて、彼らは自分が見聞したことについて非常に敏感で、血液型だけでなく占いや心理検査についても強い興味を持っている。日本の血液型研究者もA型が大多数を占めている。関心を持つ者には非A型者はいないほどである（注：この日本人についての資料の出典は不明である）。

中国版 A 型男性の一般的特徴

性格 強靱な忍耐力を持つが、かなり吝嗇でもある。順応性（注：適応性）は高く静寂を好む。しばしば自分の個性を抑制している。周囲の人と付き合うときは、たとえ気持ちの上で不安定さや変化があっても強靱な意志は動じない（注：頑固だということ述べているのであろう）。人間関係において



Figure 5 A 型分冊の表紙 1 の部分

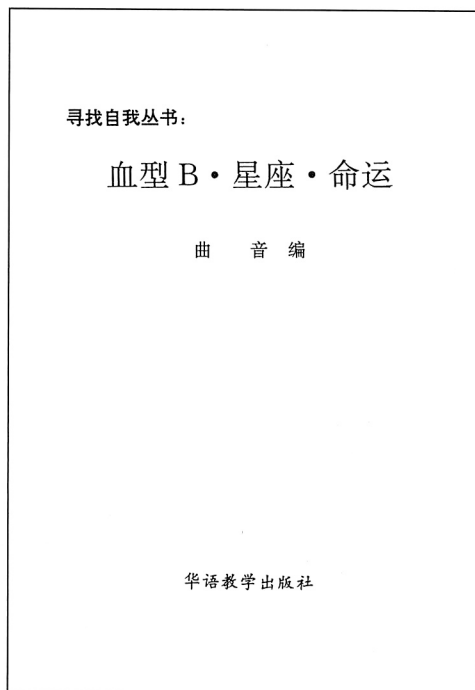


Figure 6 B 型分冊の扉の部分

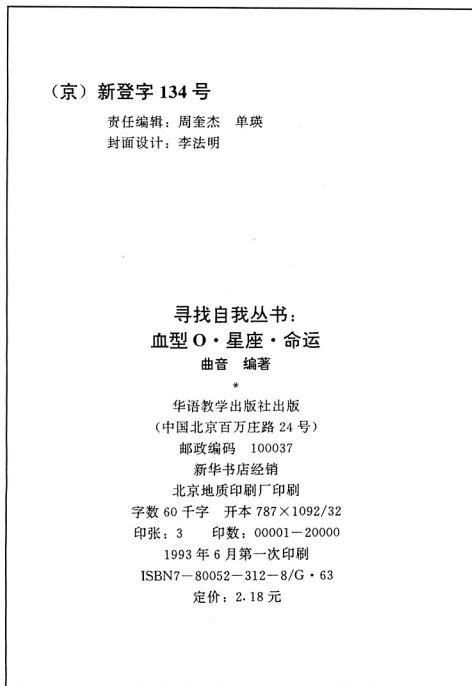


Figure 7 O 型分冊の扉の裏の部分

は上下のけじめを重視している。組織のなかでは礼儀を重んじ、組織的協調性も取り仕切ることができる。しかし、表面的な人付き合いがよくても内実は思いのほか頑固である。

将来 A 型の男性は組織のなかで実力を発揮するタイプである。ある資格や専門的知識を得てからは実力を発揮し、ある程度の成功を収めることができる。

中国版 A 型女性の一般的特徴

いかなる人とも付き合える順応性を持っている。周囲の人の考えを考慮するので、みんなに歓迎される。他人に対しては非常に厳しく、どんなことでも整然と秩序立てて整理していく。いちばん嫌いなことは他人の前で自分を表現すること、つまり人から注目されること。そこでグループのリーダーにはなりにくい。しかし、いったん優れたリーダーに出合えば潜在的な力を発揮できると思う。

将来 この人は専業主婦に適している。家庭的な人なので優れた人になり、家事をさばき子どもを可愛がって教育していく。

中国版 B 型人間における性格描写

中国版 B 型男性の一般的特徴

性格 理想主義型といえる。開拓精神があり、個

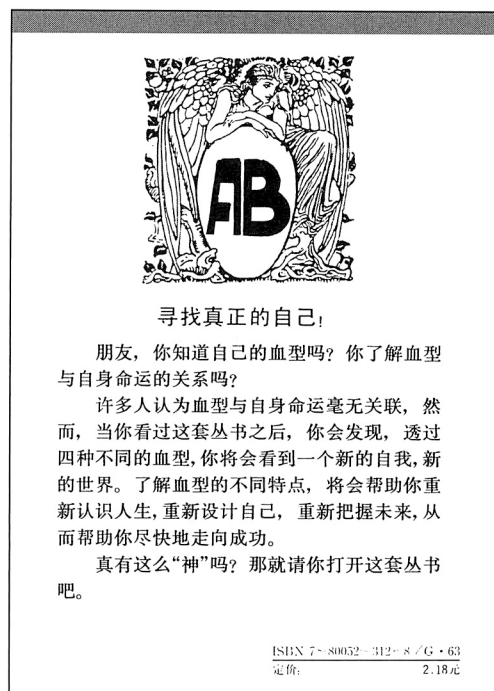


Figure 8 AB 型分冊の裏表紙の部分 (この部分は他の 3 分冊と同じである)

性的で相当熱心である。しかし、熱しやすく冷めやすい面がある。なにかを決めるときには徹底的に覚悟する。旅行好き、冒険好き、よくこれらの面で自己を表現する。チャンスに遭遇すると、自分のリーダーシップの力を誇示したがる。

将来 自分で商売や事業を営み、おうおうにして大きな成功を収めることができる。また、文学や芸術の世界に入れば意外な潜在能力を発揮することがある。

中国版 B 型女性の一般的特徴

性格 変化を追求する、リズムカルな性格である。このようなリズム感は音楽やその他の芸術、ときには生活全体に対しても作用する。B 型のリズム感を持っている人は静寂と単調を嫌う。変化を求めるのである。賑やかな活動が大好きである。他人の意見を自分から聞きにくいようなことはしない。非常に鋭敏な観察力を持っているので、自分が置かれた立場を洞察することができる。

将来 同じ所にずっといるのが嫌い。新しい仕事、開拓的な仕事が好きである。25 歳以後は前途が開けてくる。

中国版 O 型人間における性格描写

考古学の研究によると、人類の始祖はいまから 70 万年前の一種の類人猿で、南アフリカで生活していたようである。その次がいまから 50 万年前のジャワ直立原人と北京原人（注：シナントロプス・ペキネンスク）である。それでは原始人にも現在のような血液型があったのであろうか。ドイツのゲッティンゲン大学の教授で、数理統計学・血液型研究の専門家である F. ベルンシュタイン (F. Berunstein) は次のように考えている。すなわち、原始人の血液型は O 型で、のちに A 型と B 型という血液型が突然変異的に発生した—というのである。最初の O 型血液は時間的推移によって A 型と B 型を出現させたことになるのである。

これに対して、日本の古畑種基（東京大学名誉教授）はまったく異なった観点を提示している（注：1956 年文化勲章を受章している）。古畑の考え方は次のとおりである。人類の血液型には最初から A 型・B 型・C 型の別があったと主張する（注：C 型とは K. ラントスタイナーの最初の命名で、のちに O 型と呼ばれるようになる）。なぜなら人類よりも進化程度の低い脊椎動物の血液を調査したところ、すでに A 型・B 型・O 型の分化が認められるからである。

どちらの学説が正しいかは不明であるが（注：そういながらこの分冊の著者は O 型起源説をとっている）、O 型が人類の基本的で重要な血液型であること、O 型が世界最多数の血液型であることは事実である。フランス人の約 43% は O 型に属しているといわれている（注：古川の『血液型と気質』によればフランス人 500 人の統計で、A 型 43.8%、B 型 10.6%、O 型 43.1%、AB 型 2.5% となっている）。O 型人は適応力が非常に強く、グループのなかで調整役を務めることがうまい。O 型人の感情は比較的ゆたかであるが脆弱でもある。あたまの回転も早く人心の掌握がうまい。周囲の人から歓迎され、人間関係は一般に良好である。また、O 型人は特にユーモアなセンスに富み、気分が勝れないときでも元気いっぱい活動してみせる。さらに O 型人は相手の立場に立ってものを見ることがのできる、他人事でも親身になって考えていく。そこで時代に適合した性格の人といえよう。



Figure 9 頑固（中国版 A 型本から）

中国版 O 型男性の一般的特徴

性格 変化に富む生活を好み、しばしばものごとを変革してみようとする。ユーモアのセンスを持ち、感情がゆたかで、他人を思いやることができる。他人が危機に遭遇したときに手をこまねていることができないのが O 型の男性なのである。

将来 O 型の男性は主役的な人物になる。社会組織のなかでは周囲から頼られる人になるはずである。政治家向きの人といえる。実際、O 型男性の多くが政治的活動に従事している（注：このところ能見正比古の調査結果が濃厚に入っている）。

中国版 O 型女性の一般的特徴

性格 適応能力は非常に強い。交際能力は他の血液型のなかでも最高である。多様なタイプの人と付き合い合えて、他人を慮ったり、他人を援助したりする。自分の利益を犠牲にしても他人に尽くす人である。自分は社交的なのだが他人には頼らない。しかし、方向を見誤ると信じられないほど取り乱してしまう弱点がある。

将来 社会に貢献するタイプの女性である。他の女性がやりたくない仕事のなかに力を発揮することができる。外国語を学習する能力にも優れている。

中国版 AB 型人間における性格描写

われわれのコメント われわれはここに、他の血液型の部分には見られないコメントを挿入しておくと思う。この論文を中国の心理学研究者が読むときのためである。

AB 型の人を「二重人格の性格」とするのは、とんでもない解釈なのである。このような解釈が常識となってしまったのは、能見正比古の素人的筆法が主因である。「二重人格」とか「多重人格」という概念



Figure 10 政治家（中国版 O 型の本から）

は安易には使えないし、「二重性」という概念も「二重人格」とともに大衆には曲解されやすい表現である。

能見正比古は、青春出版社の『血液型で人間を知る本』（1979）のなかで次のように記述している。

「あいつは二重人格だよ」などとよくいう。ところが本来人間は二重人格なのだ。いや、二重どころか三重、四重も普通である。

この発言は危険である。これから中国の AB 型分冊に戻るのであるが、ここでも曲解は常識になっている。

中国版 AB 型男性の一般的特徴

性格 AB 型の男性は二重人格的な性格を持ち、神経質で個人的な享楽を求めたり、空想好きで術策をもてあそんだりする。彼のことを忍耐力に欠けていると思っている人がいる反面、優秀で頭脳明晰、正義感にあふれ、社会貢献をし、人と調和し真面目に仕事をしていく人だと思っている人もいる。2つの性格が入り混じっているの、その人自身を捉えることが難しい。

AB 型の性格の特徴は観察力と分析能力の鋭さであるが、あたまの回転が早いわりには勇気と行動力に欠けるきらいがある。

AB 型の男性は都会生活に適応しやすい。広告、ファッション、放送などのマスメディアに従事するのが好み、この方面で成功する人が非常に多い。

なお、AB 型の人は疲労しやすいので十分な睡眠をとることが必要である。



Figure 11 二重性格（中国版 AB 型の本から）

中国版 AB 型女性の一般的特徴

性格 AB 型の女性の性格も複雑である。もの静かな面がある反面、夢や希望に満ちあふれている面も見られる。多くのことに関心があるのでなんでも試したがる。非常に強い冒険心を持ち、しかも十分な能力があるのでその聡明さをよりよく発揮できる。しかし、AB 型の女性の多くが精神的に不安定で、騒ぎを起こしたり、猜疑心から病氣になったりする。

5. 中国版血液型性格学に対するコメント

中国の血液型性格学はどこからきたものであろうか。われわれは日本からの移入翻訳版かと思っていたがそうでもなかった。血液型別に論評していくことにする。

A 型 中国版 4 分冊の著者曲音なる人物は、中国には A 型の住民が多く、面白いことに血液型を研究する人に A 型が多い—と書いているがどうだろうか。日本の血液型研究者の大多数も A 型で、関心を持つ者には非 A 型者はいないほどであるとしているがどうであろうか。疑問である。

そして、A 型は強靱な忍耐力、かなりの吝嗇、かなり高い順応性、頑固などをその特徴として挙げている。これは日本の書物からの移入にほかならない。

B 型 著者の曲音は B 型を理想主義型としている。理想型としているわけではない。では理想追求型かとしているかというと、そういう記述内容でもない。どうして著者が理想主義型としたのか理解に苦しむところである。強いていえば、開拓精神が旺盛で個性的なところか。それとも政府の高官が B 型

なのか。

O 型 著者は ABO 式血液型の分布について F. ベルンシュタインと古畑種基の説を対比させている。曲音は前者の立場をとっている。そして、O 型が社会組織のなかの主役的人物になる資質があるという。なお、政治家 O 型説は、誤謬に満ちた能見正比古の記述の引き写しである。能見の影響がきわめて大きな部分である。ただ、藤田統一郎（東京医科歯科大学名誉教授）も竹内久美子（動物行動学者）も O 型を重視している。

AB 型 性格の二重性と二重人格は根本的に異なる様相なのであるが、市井の疑似科学者にはわからないし、大衆は偏見に汚染されがちである。テレビ界は視聴率（注：業界では「数字」という）を稼ぐために面白可笑しく偏見を強調する。「血液型」は最近世論の力で抑えられているが、偏見は消えたわけではない。血液型性格を新しい視座から分析し、堆積した偏見を払拭することができないものであろうか。

中国には、この曲音の著述のほか多数の血液型（血型）の書籍がある。次に挙げたのがその一部である（「中国版 amazon」による（株）ナツメ社調査）。

『血型点点通 A』、『血型点点通 B』、『血型点点通 O』、『血型的奥秘』、『血型星座与人生』などで、これらは 5 番目のものを除き、2004 年の 1 月から 11 月までのあいだに刊行されている。それでは台湾はどうであろうか。

6. 台湾における血液型性格学

ここで紹介するのは『秘笈』という小冊子である。これは台北で流布されているものであるが、ほかにも多数の類似本があると思う。

台湾版 A 型人の性格

思考や行動が慎重でかつ規律がある。自己防衛心が強い。家庭を重視する。責任感、義務感、使命感などが強い。忍耐力が強く犠牲的精神がある。平和、安寧、協調を重視する。意志は比較的弱いほう。細かいことを突っつくのが好き。よく自己弁護をする。猜疑心が強い。自分の考えを他人に押しつけない。他人にいろいろな情報を知らせる気持ちが強い。口数は少ないほう。ものごとに直面しても狼狽しない。正義感に富む。そのときそのときの状況で問題を解決する。悲劇の主人公的性格を持つ。同情

心が強い。

台湾版 B 型人の性格

活動力が強い。外向的。束縛されることを嫌う。熱狂的で創意が強い。仕事熱心で判断も行動も迅速である。その行動は公明正大で思考力は柔軟である。誠実でさっぱりしている。行動が自由奔放で周囲の人びとの反応をあまり気にしない。外界に対する観察力や注意力が欠如している（注：そこで行動が自由奔放なのである）。情緒不安定で行動の処理もいいかげんである。しっかりした気持ちがない（注：確固とした信念がないということか）。社交的で、賑やかな場所が好き。趣味が広く開放的である。

台湾版 O 型人の性格

自己表現を好む。政治好き。演技的行動。他人に勝ちたがる。社交的。誠実性と浪漫性の 2 面を持っている。独立精神に富む。冒険心を持つ。勝つのが好き。情熱的。理想・野心を持ち信念で行動する。争いを好む。浪漫的精神。会話をするときいろいろ計算してしゃべる。自分のミスを認めない。感情に支配されやすい。人びとを教育するのが好き。さっぱりした性格。ものごとにこだわらない。飽きない（注：凝り性か）。頑固。開拓精神を持っている。目上の人に真心を尽くす（注：忠誠心のことである）。

台湾版 AB 型人の性格

人に接するのがうまい。賑やかな場所が好き。人の気持ちに合うように工夫していく。強烈な批判精神を持っている。カラッとしている。表裏が一致している。有能である。機知に富む。集中力が強い。怒りっぽい。疲れやすい。人をからかったり操ったりするのが好き。人情味がない（注：ドライということか）。感情安定。行動力に富む。他人の権利を侵さない。二重人格（原本：雙重性格）である。

7. 台湾版血液型性格学に対するコメント

台湾版は中華人民共和国版と比較すると大きな見劣りがする。日本の文献がそのまま移行した感じである。ここでも AB 型を二重人格としているのは驚きである。韓国や東南アジア諸国にも血液型性格学が広がっているそうであるが、憂慮しなければならないことだと思う。

最近、わが国では星占いや手相などとともに新しいスタイルをとった血液型性格判断が再びマス・メディアの前面に現われてきた。かつての過ちを繰り返



Figure 12 台湾版血液型性格学の表紙

返さないでほしいと思う。

8. 血液型性格学（性格判断）の妥当性

血液型性格学（時代的にいえば血液型気質論というべきか）でつねに問題になるのは、「ある人の血液型を当てることができるか」ということである。その検証の仕方には2つの方法がある。すなわち、古川竹二やその他の識者が作成したある血液型の特徴項目にどのくらい適合しているかということ、もう1つはある知人の日常行動からその人の血液型を推断して、その人の血液型をどのくらい当てられるかということ一である。両者ともに適合率は非常に低率である。しかし、古川は前者の方法で90%代の適合率を得ているのである（注：古川竹二『血液型と気質』p.86参照）。しかし、われわれが古川と同じ特徴項目表を使って追試しても適合率は50%以下である。どうしてこうなるのであろうか。その謎は約20年して判明している。古川は特徴項目全体に対する了解（*Verstehen*）を重視し、われわれは心理測定の常道に従って数量化によって処理しているからである。

古川学説（注：古川が命名したわけではないが、血液型気質相関説、血液型気質関連説などと呼ばれている）は、1933（昭和8）年3月28・29日の両日、岡山医科大学で開催された日本法医学会第18次総会での論争に破れ、それ以降凋落の一途をたどった一と一般的にいわれているが事実是这样ではなかったのである。古川側の田中秀雄は了解心理学的な本質直観をベースにして所論を展開し、批判側の守安直孝は心理測定をベースにして反論を展開したから交喙のくちばしのように噛み合わなかったのである。ただ、聴衆からすれば数量をベースにした

ほうがわかりやすい。本質直観などというのは、測定を重視する側からすれば一種の *magic* にすぎないものでしかない。

田中と守安の対立は現代にも生きている。「あの人の血液型は」という場合、この2人は必ず顔を出すのである。われわれは守安的な立場でものをいつてきたが、田中的なスタンスにも魅力を感じている。いずれなんとか統合したいと思っている。

9. 最近の血液型性格問題

「血液型人間学」に拠ってきた能見俊賢が没し、「BOA サークル」もすっかり影を潜めた。現在、巷間における目立った動きといえば、藤田統一郎（東京医科歯科大学名誉教授）の血液型と身体的疾患の関連についての研究（注：『血液型の暗号』2007）、御瀧政子（心理研究家・作家）の血液型性格論・裏血液型性格論、DNAまで持ち出した空想的なG・ダビデ研究所の血液型性格占いなどがある。これらは能見正比古・俊賢のような心理学に対する攻撃性を持っていないし、暗さも感じられない。かれらは、大衆社会における血液型性格問題を古川・目黒・鈴木・能見という連鎖の桎梏から解放させたといえよう。

それでは心理学界はどうであろうか。どんなに優れた心理学者でも皮膚や頭骨の内面に這入ることができないし、投薬することも処方箋らしきものを書くこともできない。心理学者は「意識の流れ」（注：W. James）の監視人であり、「意識の流れ」とともに彷徨う放浪者なのである。しかし、ここにも新しい動きが現われている。

大脳機能を研究している生理学者クロニンジャー（C. R. Cloninger）のCTCI（Cloninger's Temperament Character Inventory）と血液型との関連である。われわれはTBSの番組に便乗してCTCIと血液型4型との関連を調べている（注：2004. 12. 28）。いちおうパイロット・スタディのかたちを採らざるをえないが、結果はおおむね次のとおりである。

(1) A型者49人は苦痛回避 (pain avoidance) において高い傾向を示している。 $\bar{x}$ と (SD) は次のとおり。

A型：46.8 (16.3)	O型：41.4 (17.6)
B型：38.6 (18.4)	AB型：34.9 (13.9)

(2) B型者31人は新奇性追求(novelty seeking)において高い傾向を示している。 $\bar{x}$ と(SD)は次のとおり。

B型: 42.8 (11.0) O型: 41.1 (23.4)

A型: 39.0 (10.3) AB型: 35.8 (14.2)

(3) O型者35人は返報期待(reward dependence)において高い傾向を示している。 $\bar{x}$ と(SD)は次のとおり。

O型: 53.7 (9.3) A型: 43.0 (12.7)

B型: 40.9 (10.8) AB型: 40.1 (10.0)

Reward dependenceは一般に報酬依存と訳されているが、ここでは返報期待としたがまだ十分とはいえない。Reward dependenceとは、ゆたかな友好関係の維持, 社会的共感や賞賛に対する期待を含む広汎な概念である。

(4) AB型者14人: 返報期待・新奇性追求・苦痛回避の三者が混在していて判然としていない。

全体的に見ると、苦痛回避とA型, 新奇性追求とB型, 返報期待とO型とが関連したことになる。そして、苦痛回避とセロトニン(serotonin), 新奇性追求とドーパミン(dopamine), 返報期待とノルエピネフリン(norepinephrine)とが結びつき, さらにA型とセロトニン, B型とドーパミン, O型とノルエピネフリンとが結びついてくる。しかし、推計学的な検定によれば3群の $\bar{x}$ 間に有意差は見当たらない。この分野でしっかりした結果が出れば、脳内物質と気質, そしてABO式4型の血液型がうまくリンクされるかもしれない。

10. 結 語

この論文は「血液型気質相関説」の史的評論の終結編である。能見正比古の跡を継いだ能見俊賢の追悼, 「ABOの会」の閉幕, 「BOAサークル」の誕生と消滅を記載した。そして心理学の学術誌では最初のことであるが、中華人民共和国における血液型性格学(性格判断), 台湾における動きを記述した。

わが国においても新しい動きが活発化してきた。血液型性格学の新しい出発になるようである。ただ、どうにもならない問題が残存している。それは科学論である。

科学はnomotheticなものである。法則定立的なものなのである。しかし、心理学における法則というものは、物理学や数学の法則のように確固とした

ものではない。ヴント(W. Wundt)は「例外的なものが規則的なものより少ない心理学の法則はひとつもない」と述べている。心理学は一般的に具体的な個人を研究することを好まない。個人を除外して平均的人間像を求めようとする。そこで、ヴントが指摘しているように例外的なものが規則的なものの埒外に山積することになる。科学としての心理学はそれでも構わないのであるが、一般の社会人は同じ理解をしているとは限らない。とくに推計学を用いた結論には注意すべきであろう。最近の心理学の論文にはほとんど $p < .05$ とか、 $p < .01$ というような記号が見られる。意味を知っていて使っているのだろうか。今後の心理学, ことに応用心理学は新しい血液型性格学と平行して進んでいくことになると思うが、嘲笑されないよう十分学習していかなければならないと思う。

主要参考文献

- 曲音 1993 血型A・星座・命運(中国語) 華語教學出版社
- 曲音 1993 血型B・星座・命運(中国語) 華語教學出版社
- 曲音 1993 血型O・星座・命運(中国語) 華語教學出版社
- 曲音 1993 血型AB・星座・命運(中国語) 華語教學出版社
- 木島伸彦ほか6名 1996 Cloningerの気質と性格の7次元モデルおよび日本版Temperament and Character Inventory (TCI) 季刊 精神科診断学 7, 379-388.
- 前川輝光 1998 血液型人間学—運命との対話— 松籟社
- 大村政男 2006 石津作次郎と雑誌『血液型研究』人文科学研究所(日本大学文理学部)紀要第72号 155-168.
- 大村政男 2007 能見正比古の月刊『アボ・メイト("abo mate")』と「ABOの会」人文科学研究所(日本大学文理学部)紀要第74号 179-193.
- 田辺邦夫 1989 血液型研究 第2分冊(自昭和6年10月1日—至昭和8年8月1日) BOAサークル事務局
- 田辺邦夫 1989 血液型研究 第2分冊(自昭和8年9月1日—至昭和10年11月1日) BOAサークル事務局

(受稿: 2008. 12. 10, 受理: 2009. 3. 6)